

令和4年度第1回 かがしま外国人材受入活躍推進会議の結果（概要）

外国人材政策推進室

- 1 日時 令和4年9月7日（水）10:00～11:30
- 2 場所 オンライン
- 3 出席者 40名（経済・業界団体，監理団体，有識者等，国，市町村，県等）
- 4 内容

(1) 事務局説明

- ・外国人材受入活躍推進に関する県の取組について
- ・厚生労働省「地域外国人材受入れ・定着モデル事業」について

(2) 講演：新たな送り出し国の現状について

講師：パーソルキャリア(株)事業部長 多田盛弘氏

○日本での傾向について

- ・ベトナムは在留者として圧倒的に数が大きいですが、現地で試験が建設以外やっていないため、海外で試験合格してる人はほとんどいない。これはベトナムの特定技能が技能実習からの移行、もしくは留学生等で、日本で試験を受けて、日本で特定技能の資格を得ている人が圧倒的に多いことを示している。
- ・一方でインドネシア，フィリピン，ネパールは海外での合格者が多い。特にインドネシアは多くの職種の合格者の半分以上がインドネシアである。現在の海外からの採用の母集団で多いのは，試験実施と合格者の多いインドネシア，次いでフィリピンそしてネパールである。
- ・技能実習から特定技能になった方の転職で採用をしようとする時，日本で長く働いていたという前提があるため給与水準が非常に高くなる。地方部などで今後、人を増やしていくときは、国内にいる方の転職先というよりは海外からの新規採用が手段としては非常に重要になってくる。その中で母集団が多いインドネシア，フィリピン，ネパール等が今後の戦略上重要になってくる。
- ・特定技能では転職が可能で，技能実習も今後どうなるかわからないことを踏まえると，どの在留資格であれ，定着という厚労省のモデル事業で取り組んでいるポイントが必要になる。

○インドネシア

- ・試験合格者が群を抜いて多いため，技能実習より特定技能の方がインドネシアの存在感が強くなってきている。インドネシア政府としても特定技能に関しては増やしていきたいという話をしていた。
- ・インドネシアの方の紹介でイスラム教徒が多いため，ラマダンで仕事にならないという心配があるが，一か月間飲み食いしないというような断食ではない。実態上，業務の中で特に問題ないと聞いている。
- ・1日5回の礼拝というのが基本的にあって，仕事の中に礼拝に行ってしまうと仕事にならないのではないかとよく聞くが，仕事の最中にどこかに行くということはない。知らないものに皆さん心配になるが，実際採用してみると，皆さん全く問題

ない。これはインドネシア，イスラム教に限らずだが、考えている宗教トラブルというのは起きていない。

○フィリピン

- ・海外で働く人を管理する仕組みが非常に整っている。そのためフィリピン人を採用するときはフィリピン政府に登録する必要があり，日本のフィリピン大使館からも承認を取る必要がある。そして日本の最低賃金とは別に，フィリピン政府が決めた待遇になっていないと採用できない。これはフィリピン政府が自国の人達が海外で搾取されたり，その国の人以下の給与で働かせられないようにしているため。
- ・政府側のプロセスで労働者側に借金をさせることを固く禁じており，基本的に借金がない状態で日本に来ている。そのため失踪が非常に少ない。一方で，他の国よりプロセスが煩雑であり，手間がかかる。

○ネパール

- ・小さな国でGDPの30%が出稼ぎ。主にインドや中東などに出稼ぎに行っていた方が非常に多い。
- ・最近新しい選択肢として，日本に出てきており，特定技能で3番目の試験合格者数。ネパールの人材の現時点での特徴は留学生が非常に多い。

○スリランカ

- ・90%以上が仏教徒であり，宗教的な違和感は少ないと思う。
- ・今，出稼ぎ熱で，特定技能の試験も始まり，今後，技能実習にしても海外，特に日本に行くという要望が増えている。これはスリランカが非常に経済的に厳しい状況のためである。
- ・個人的な感触からすると，家族のためお金を稼ぐ意識が強い印象。

○バングラデシュ

- ・人口が多く，約2億人。日本の倍ぐらいの人口で，インドネシアと同じように母集団が多く，今後増えてくる可能性もある。
- ・非常に親日的な国である。

【質疑応答】

（質疑）永野次長

- ・日本は外国から見て魅力的か。

（回答）パーソルキャリア

- ・日本の魅力は失われている。中国で日本語学校がどんどん減っており，給与が他の先進国で負けて選ばれづらくなっている。外国人材も不足する未来が起こりえる。

（質疑）永野次長

- ・外国人材はキャリアアップに興味があるようだが，なぜなのか。また外国人材は高賃金を求めて，地方部よりも大都市を目指すのか。

（回答）パーソルキャリア

- ・特定技能介護の人材は介護福祉士を取ると長期滞在ができるため，明確なキャリ

アパスを知りたがる。飲食料品製造は2号がなく、5年で帰らないといけないため、目先の賃金が高いところを選ぶ傾向がある。

- ・ 仕事環境や生活環境が良いなど、日本人と外国人材が地方部を選ぶ理由は同じである。
- ・ 外国人というより、地域で長く住みたい、長く働きたいと思われる仕組みを作ることで、結果的に外国人のみならず日本人も集まったり、定着に繋がるのではないかと感じた。

(質疑) 酒井准教授

- ・ 本県の基礎自治体の外国人材の受入れの認識について、どのような感想があるか。

(回答) パーソルキャリア

- ・ 印象としては二極化が進んでいる。5年、10年経つと受入れ体制に大きな差が開く印象。

(3) 意見交換（業界団体、市町村発表）

○JA鹿児島中央会

- ・ 外国人材は仕事も早いし、覚えも早いし、明るいということで農家から非常に評価が高い。特定技能も導入が始まっているが、おそらく今から要望してくる農家の人たちも増えてくるんじゃないか思っている。
- ・ 休みに買い物に連れて行ったりしているが、自分達でレクリエーションを企画してやる余力がない。農協も日頃仕事があり、休みの日を外国人材の為だけに使うわけにはいかない。それが悩ましいところだということをやっていた。

○県老人保健施設協会

- ・ 在留介護で長く働きたいという外国人の声が聞かれたのは非常に心強いが、私も県内83施設あり周知活動をやっても受入施設が増えず、非常に悩ましいところである。どのように要因を分析しているか。

○パーソルキャリア

- ・ 日本人だと採用コストをかけてなかったのに、外国人材は日本人より金がかかるということに抵抗があって、一歩踏み出せないところが外国人材が増えないポイントとしてよく聞いている。

○県観光連盟

- ・ 現在、本県の大手旅行代理店調停のホテル旅館では、外国人を雇用している施設の割合が、30%強で、中には1ホテルで、14人の雇用しているところもあり、育成、定着に向けて環境整備に尽力していると聞いている。
- ・ 最近、国の新型コロナウイルスの水際対策の緩和によって、特に福岡空港発着する香港からの添乗員つき観光ツアー等が、鹿児島まで周遊するものが徐々に発生しており、鹿児島空港の定期便復活をはじめ、インバウンド回復後には外国人材の計画的な雇用を進めていくという施設もさらに増加していくものと考える。

○枕崎市水産商工課

- ・ 令和3年から外国人技能実習生に対して日本語講座を開設した。前年度の実績と

して、参加者が40名であった。日曜日に5回連続で2時間の講座を行った。受講生に聞くと、非常に楽しかったという意見が多かった。また、事業者に聞いたら、明るくなった、話をいっぱいしてくれるようになったという。昨年に引き続き、今年度も4月からの技能実習生の入国者が130名程度来ているため講座の募集をかけてるところ。

【質疑応答】

(質疑) 鹿児島経済同友会

- ・受け入れる人材は同じ国でそろえたほうが良いのか。

(回答) パーソルキャリア

- ・調査でいろいろなトラブルで複数か国のところに行ったが、結果からいうと必ずしも複数か国だからトラブルが多くなることは、私たちの観測範囲で調べる限りは見られなかった。同じ国の方が当然文化も近く、働きやすさというのがある一方で、同じ国で入れても問題は起きる。揃えられるならいいかもしれないが、しっかりとした受け入れ態勢があれば、複数か国になっても管理できるのではないかと、というのが私たちの判断。

以上